

我々と同じにおいがしますね

NTT東日本社長 渋谷直樹さん 福島県警本部長(当時)・松本光弘さんからの言葉



横関一浩撮影

地域の役に立つ ええやん

東日本大震災が起こったとき、NTT東日本の福島支店長だった。病院や警察署との交信が途絶した、避難所が孤立した……。通信の復旧を求めるSOSが相次ぐ。現場に衛星通信の設備を持ち込もうにも道路状況は不明。「福島県警に相談してみろ」。連携は早かった。パトカーに先導してもらい、現地入りした例も多い。「どちらにも逃げられない立場で被災者に寄り添っていました」

1年後、県警の松本光弘本部長が転勤すると聞き、お礼に訪ねた。互いに力を尽くした記憶を語り合ううちに、松本さんが言った。「NTT東日本社員の方々は我々と同じにおいがありますね」。社員が地域の役に立てたのだと知り、うれしかった。いつかは人の役に立つ人になってほしい。幼少時から両親に言われていた。終戦時に母は朝鮮半島から引き揚げ、父は家業が倒産。苦しい戦後を過ごす。それでも自分を大学まで進ませた。両親の思いは震災に直面しても言動の軸になっていた。

1985年、NTTに入る。選んだのは人々の生活に欠かせない通信基盤を持つからだ。課長になると部下

の提案には「ええやん、やってみよう」と応える。いつしか「ええやん課長」があだ名に。

NTT東日本の社長に就いたのは2022年。親会社NTTの当時の社長が「私は退任します。次のNTT東日本の社長をお願いします」。驚きよりも「よしっ」と感じた。NTT東日本は電話回線や光回線を管理するなどの現場がある。「地域貢献が実感できる会社に向いている」

執務室には二つの書を飾る。「ええやん」と「心が大事」。目標に定めるのは売上高や営業利益といった数字ではない。共感、協力、感謝をもとにした心の経営を掲げる。気持ちをひとつにすると「一体感とアイデアが生まれる」。

今後はネットワークの強化や、先端技術を生かした地域の防災計画の策定、農業の振興などで勝負をかける。きつと「ええやん、やってみよう」と進んでいく。(江島俊彦)

1963年生まれ、京都府出身。京都大学工学部を卒業し、NTT東日本の副社長、NTTの副社長などを歴任した。アウトドア派で、休日は体を動かすことが好き。最近では近場での登山が多い。

『朝日新聞』2026年1月15日付夕刊5面